65 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2021年8月1日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

迫る 五輪マラソンを走る意味

1日（日）＝1、3面

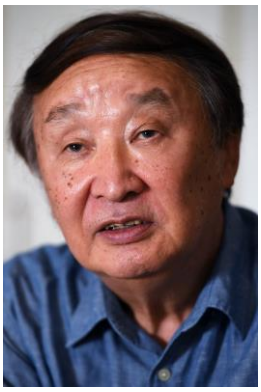
五輪マラソンに出場した選手の喜びや涙は多くの人々の記憶に残っています。

例えば、有森裕子さん、高橋尚子さんの姿。そして、１９９２年バルセロナ五輪男子マラソンに出場した谷口浩美さん＝**写真**＝がレース後に発したあのひと言は、もしかしたら勝負にこだわりすぎるスポーツ界に影響を与えたのかもしれません。

マラソン選手が五輪後に見つけた「走る意味」に迫ります。

特集ワイド 東京五輪に見る「失敗の本質」

3日（火）＝夕刊特集ワイド



新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）下で東京オリンピックが強行開催されています。今年は太平洋戦争開戦から80年。くしくもその年の五輪となりました。

立教大の金子勝特任教授（69）＝**写真**＝は、菅義偉政権を旧日本軍の失敗になぞらえ、「五輪は『失敗の本質』のような状況になってしまった」と指摘しています。いったいどういうことなのでしょうか。詳しく話を聞きました。

介護保険制度をおさらい

5日（木）＝くらしナビ面

低所得の高齢者が、特別養護老人ホーム（特養）など介護施設で払う食費を減免する制度などが８月に見直され、利用者の負担が増えたり、補助を受けられなくなったりする場合があります。

介護サービスを利用するとかかった費用の１～３割を支払いますが、特養のほか、老人保健施設（老健）、療養型の病院やショートステイでは、食費・居住費・光熱費は原則、全額自己負担となります。制度の仕組みをおさらいしてみました。

連載「アルツハイマー病研究報告」

5日（木）＝科学面

「世界アルツハイマーデー」でライトアップされた姫路城

記憶や行動に問題が生じるアルツハイマー病の推定患者数は、世界で３０００万人に上るといわれています。その進行を抑える世界初の新薬「アデュカヌマブ」が６月、米食品医薬品局（ＦＤＡ）に条件付きで承認されました。

今年はドイツの精神科医アロイス・アルツハイマー博士による病気の発見から１１５年となります。長年にわたる原因解明の研究と治療薬開発の歩みや、近年の診断技術開発について２回の連載で紹介します。

竹橋の窓辺から

編集後記

７月から始まった新連載「毎日ことば」を楽しみにしています。毎日１問の出題と解説に、「知っているつもりで、ちゃんと分かっていなかったな」とうなずけてとても面白いです。答えがどこに載っているのか探しながら紙面をめくるのもワクワクします。後からまとめて読み返すことができる専用のスクラップノートも発売されたので、最寄りの毎日新聞販売所でお求めください！

（小野田香織）

毎日新聞 150 2022年2月21日 毎日新聞創刊150年

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。